

# 立ちほだかる世界の壁

世界選手権大会 2007年8月18日-26日 ウクライナ・キエフ

木村佳司

世界の壁はまた高くなってしまった。そう感じずにはいられないウクライナの世界選手権。

2005年に愛知で垣間見た世界は幻だったのか。

2007年8月18-26日 ウクライナ キエフ  
世界選手権大会 2007



ポルトガルを1m差でかわした日本・加藤気合で掴んだ28位だ。

日本男子3走は加藤。  
前半快走し、中間地点までにアメリカ、ポルトガルを捉える。後半も三つ巴のまま、勝負はフィニッシュラインまでもつれ込んだ。最終的には1mの差で加藤が逃げ切って、日本男子の順位を28位まで押し上げた。



日本男子2走・松澤俊行

れた。予選がすべて終わったあとで世界選手権の開会式が行われ、本当の世界選手権が開幕した。だが開会式の時点で日本の個人戦はもう終わってしまったのだ。

## スプリント種目予選 (8月18日)

### 男子予選A組

1	Peter oberg	Sweden	0:12:53
15	Kiril Nikolov	Bulgaria	0:14:00
26	加藤弘之	日本	0:15:27

### 男子予選B組

1	Yurii Omelchenko	Ukraine	0:13:02
15	Ross Morrison	NZ	0:14:00
26	松澤俊行	日本	0:15:24

### 男子予選C組

1	Thierry Gueorgiou	France	0:12:15
15	Raul Martin	Spain	0:13:50
29	小泉成行	日本	0:15:03

### 女子予選A組

1	Ingunn H Weltzie	Norway	0:11:56
15	Zanda Abzalone	Latvia	0:14:08
21	番場洋子	日本	0:15:04

### 女子予選B組

1	Heli Jukkola	Finland	0:11:52
15	Sandra Zurcher	USA	0:14:27
22	小暮円香	日本	0:16:50



小暮円香 (スプリント予選)

## 日本男子リレーは28位

### リレー男子結果

1	Russia	2:10:26
2	Sweden	2:11:08
3	Finland	2:11:35
28	日本	2:50:08

日本男子1走は紺野俊介。

前半トップ集団にいた。中盤ルートミスで2分程度遅れたが、その状態をなんとか維持して2走へタッチ。トップとのタイム差がそれほどついていない。しかし順位は26位。今回のリレー競技はそれほど激しい争いだ。

日本男子2走は松澤俊行。

前半に大きなミス1回、細かいミスが数回あり、大きく遅れてきた。日本とのライバル国にも差をつけられてしまう。アメリカやポルトガルにも抜かれ、30位まで後退する。

### リレー女子結果

1	Finland	1:46:35
2	Sweden	1:47:41
3	Norway	1:47:50

日本女子は今回代表選手が2名。このため日本女子はリレーには参加しなかった。

参加者のレベルの違いや資金的な問題もあるだろうが、唯一の国別対抗戦であるリレーに参加できる陣容で参加してほしかった。

## 日本選手全滅・予選通過ゼロ

まずは結果をみていただく。すべての個人種目において予選通過者ゼロ。日本にとって厳しい現実を見せつけら

## ロング種目予選 (8月19日)

### 男子予選A組

1	Marc Lauenstein	Swiss	0:57:40
15	Andreas Kraas	Estonia	1:08:12
21	松澤俊行	日本	1:14:49

### ロング男子予選C組

1	Philippe Adamski	France	0:57:28
15	Alexandru Perstnev	Moldova	1:07:19

- 29 紺野俊介 日本 1:16:25  
 ロング女子予選 C 組  
 1 Anne M Hausken Norway 0:47:52  
 15 Christiane Trobe Germany 1:03:42  
 23 小暮円香 日本 1:19:46  
 番場洋子は体調不良のため欠場

### ミドル種目予選 (6月20日)

- 男子予選 A 組  
 1 Valentin Novikov Russia 0:28:54  
 15 Kiril Nikolov Bulgaria 0:32:45  
 26 加藤弘之 日本 0:38:02  
 男子予選 B 組  
 1 Thierry Gueorgiou France 0:26:02  
 15 Andreas Kraas Estonia 0:31:06  
 29 小泉成行 日本 0:39:28  
 男子予選 C 組  
 1 Daniel Hubmann Swiss 0:26:44  
 15 Henrikas Pauzas Lithuan 0:30:35  
 39 紺野俊介 日本 DSQ  
 女子予選 B 組  
 1 Heli Jukkola Finland 0:26:43  
 15 Anne M Hausken Norway 0:37:26  
 26 番場洋子 日本 1:02:27  
 女子予選 C 組  
 1 Helena Jansson Sweden 0:26:28  
 15 Anna Antonowicz Poland 0:34:51  
 27 小暮円香 日本 1:08:15



紺野俊介 (ミドル予選)  
 痛恨のコントロール飛ばし



開会式に臨む加藤。だがこの時点で日本に残された種目は男子リレーのみだった。

### 番場・コンディション最悪

日本人でもっとも世界に近い選手は番場洋子だろう。しかし番場は現地・ウクライナに入ってから体調不良に見舞われ、食事が満足にできない状態だった。

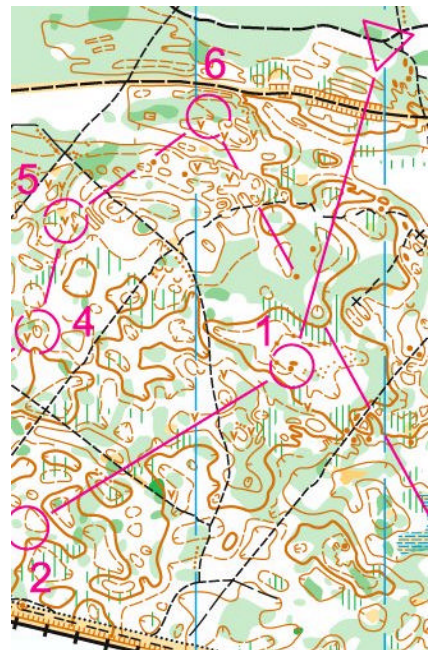
このため予定していたロング予選を棄権し、身体的に負担の少ないスプリント予選とミドル予選のみに出場している。しかしそんな体調で予選を通過できるほど世界選手権は甘くはなかった。

思うように自分のコンディションを作ることができない外国での体調管理は難しい。翻って思うに、2005年に日本で行われた世界選手権で外国からやってきた選手もコンディション作りには苦労していたに違いない。それでも世界のトップ選手は体調を整えて結果を出してきている。こういった点の素晴らしさを改めて感じる。

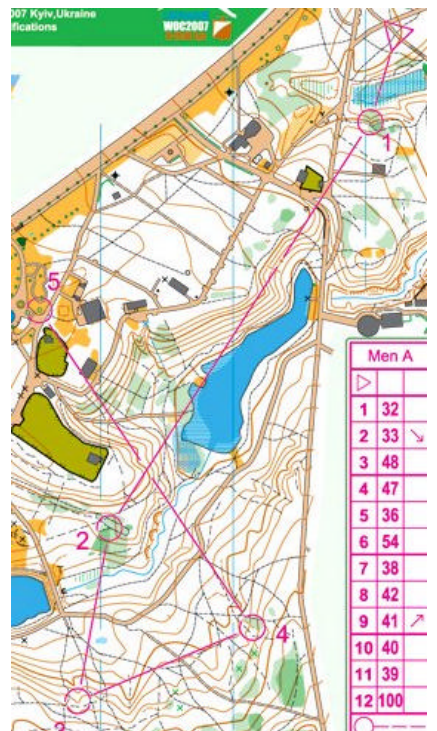


番場洋子 (スプリント予選)

いかに予選突破の可能性があったとしても、体調不良ではどうしようもない。次回の世界選手権に期待しよう。



ミドル予選で使われた地図  
 砂丘の複雑な地形を持つトレイン  
 見通しも悪く、難易度も高い。



スプリント予選の地図  
 通行可能度の高い公園。難易度も高くなく、スピードが求められるコースだ。

## 世界選手権メダルのゆくえ

女子ロング種目で、なんと金メダルを2人が分け合った。しかも同じフィンランドのチームメイト、ミンナ・カウピとヘリ・ユッコラである。スイスのシモーネは僅かにミスをして3位。



ミンナ・カウピ(フィンランド:左)とヘリ・ユッコラ(フィンランド:右)。チームメイトで女子ロング種目の金メダルを分け合う。

ロング女子決勝 2007年8月23日

- |                 |         |         |
|-----------------|---------|---------|
| 1 Minna Kauppi  | Finland | 1:20:17 |
| 1 Heli Jukkola  | Finland | 1:20:17 |
| 3 Simone Niggli | Swiss   | 1:21:48 |

ロング男子決勝 2007年8月23日

- |                   |        |         |
|-------------------|--------|---------|
| 1 Matthias Merz   | Swiss  | 1:44:28 |
| 2 Andrey Khramov  | Russia | 1:48:06 |
| 3 Anders Nordberg | Norway | 1:48:36 |

ミドル種目とスプリント種目では、女子はシモーネ(スイス)、男子はティエリ(フランス)がともに優勝し2冠を飾った。この二名は今や世界選手権の顔といってもいいだろう。2005年の愛知でも大暴れしたところは記憶に新しい。



ティエリ・ジョルジュ(フランス:左)とシモーネ・ニグリ(スイス:右)今や世界選手権の顔となった。

ティエリ(フランス)は2005年には世界選手権ミドル種目の3連覇を達成したが、2006年デンマーク大会でミドル種目4連覇を阻まれた。そのときのインタビューに答えて「来年からまた連覇が始まる」と言い放った。

有言実行。フランスの大男の並々ならぬ熱意を感じる出来事だ。

その勢いなのだろうか、スプリント種目でも最終コントロールから大逆転、0.9秒差で優勝をもち取った。

シモーネ(スイス)は2005年からミドル種目の連覇を3に伸ばした。

ミドル女子決勝 2007年8月22日

- |                     |         |         |
|---------------------|---------|---------|
| 1 Simone Niggli     | Swiss   | 0:32:13 |
| 2 Heli Jukkola      | Finland | 0:33:18 |
| 3 Marianne Andersen | Norway  | 0:34:14 |

ミドル男子決勝 2007年8月22日

- |                     |         |         |
|---------------------|---------|---------|
| 1 Thierry Gueorgiou | France  | 0:32:21 |
| 2 Tero Fohr         | Finland | 0:34:22 |
| 3 Valentin Novikov  | Russia  | 0:34:30 |

スプリント男子決勝 2007年8月26日

- |                     |        |           |
|---------------------|--------|-----------|
| 1 Thierry Gueorgiou | France | 0:14:44.0 |
| 2 Matthias Merz     | Swiss  | 0:14:44.9 |
| 3 Martin Johansson  | Sweden | 0:15:03.6 |

スプリント女子決勝 2007年8月26日

- |                 |         |           |
|-----------------|---------|-----------|
| 1 Simone Niggli | Swiss   | 0:12:06.9 |
| 2 Minna Kauppi  | Finland | 0:12:26.6 |
| 3 Lena Eliasson | Sweden  | 0:12:46.4 |



男子ロング種目決勝の地図

## ロング・コースの進歩形

今回の世界選手権で注目したのはロング種目コース設定方法である。

会場近くのスペクテーターズコントロールにたどり着く前に、コースが2つに分かれる。そこから先はリレー競技でよく使われるファシユタ形式のコース設定となっている。

これは明らかに追走を防ぐための手法だが、バタフライループではない形式だ。

今回はわざとコースの長さを変えて、選手がバックになるのを防ぐ設定となっている。ただ、コースの長さを変えるとというのは、演出上、好ましくはないだろう。

この手法はそれなりに使える方法だと思われる。今後日本国内でも採用する大会が出るかもしれない。

## 一筋縄ではいかない参加

ウクライナは旧ソビエト連邦にあった国家。お国がらからなのか、世界選手権でも輸送体制のずさんさが日本チームをはじめ各国から指摘され、多く

の不満がでたようだ。

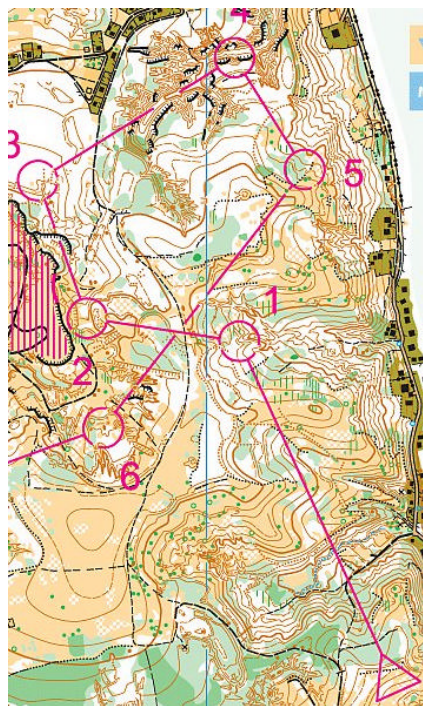
いくら待っても帰りのバスが来ないなど、もしそれがウクライナでは当たり前前の輸送体制であったとしても、それに付き合わされる参加者はたまったものではない。コンディションつくりも一苦労である。

こうしたお国事情は現地入りして初めて判ることが多い。参加するチームや選手の目線で、ナニが障害なのか、ナニを準備しなければならないのかを事前に見定めておくことができれば、大会時期に慌てることなくレース準備を進めておくことができる。

こうした準備を行うのがトレーニングキャンプという場。強豪国は必ずトレーニングキャンプで現地を事前に一度訪れているものである。

十分な資金やサポートのない日本チームにとってトレーニングキャンプに参加することも難しい。大会本番になって初めて訪れる国でいきなり戦えるコンディションにまで持ってゆくことが求められるのだ。

(木村佳司)



ロング予選の地図。大きな地形の上に広がるオープン。トレイル難易度が低いだけに体力がないとどうしようもない。

世界選手権の写真は主催者のwebサイトに掲載されたものを使用しています。